

大学のいま

池上彰の大岡山通信



若者たちへ

401

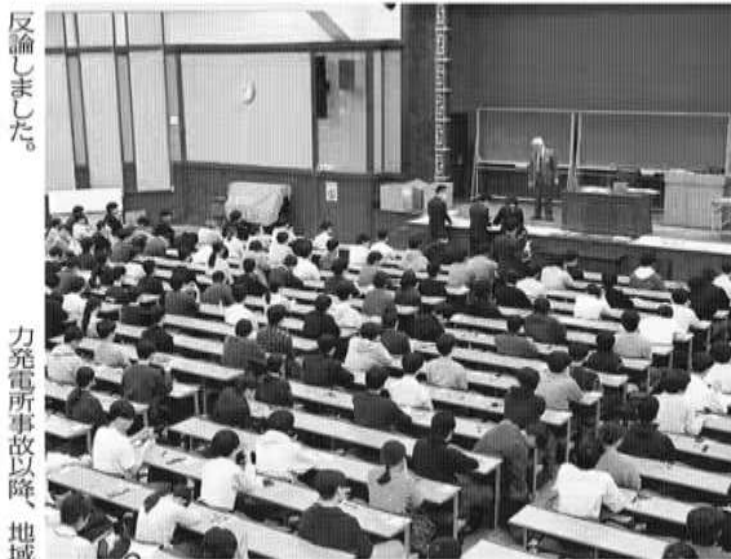
毎年4月から3カ月間、東京科学大学で授業を持っていますが、夏休みは別の複数の大学で集中講義を担当しています。これは1コマ90分の授業を1日3コマ、5日間で計15コマ担当するものです。

2026年の夏は新たに国立大学法人の福島大学でも集中講義を受け持ちました。東日本大震災で大きな被害を受けた福島で、復興に取り組んでいる大学の学生諸君のためになるのであればと思って引き受けたのですが、その最中に福島大学の研究を揶揄（やゆ）する動画がネットに掲載されて騒動になりました。

ト上の名前で登場し、全国各地の大学を偏差値という物差しで切っていくという企画シリーズです。

今回、福島大学を取り上げた企画では、2人が福島大学を訪れ、学生にインタビュー。大学のお薦めの学部を尋ねられた学生の一人が「放射能（研究）は福島ならでは」と答え、出演者の一人が「放射能とか原子力って、エネルギーで重要な問題なわけですよ。福島大には触らせたくない」と発言したのです。これが福島大学の研究を揶揄したとしてネットで拡散。炎上しました。これに関して福島大学の佐野孝治学長は、大学のホームページで即座に

偏差値の意味を考える



国公立大2次試験の前期日程に臨む受験生（東京都文京区の東京大学）

「福島大学は、東日本大震災及び東京電力福島第一原子

力発電所事故以降、地域の皆様をはじめ、国内外の大学・研究機関等と連携しながら、

福島大学の復興と地域課題の解決に向けた教育・研究に取り組んできました。とりわけ、原子力災害や環境放射能に関する研究は、福島大学の経験を経験を科学的に検証し、その成果を国内外に還元していくための重要な研究活動です。こうした教育・研究活動に真摯に取り組んでいる学生・教職員が、尊厳を傷つけられることがあってはならないと考えております」

怒りを抑えた冷静な筆致で反論しています。

各大学に関してネット上に出る偏差値は、特定の予備校の模擬試験の結果で出た数字です。そもそも模擬試験を受けた受験生が少なかった大学に関しては、統計学的に意味のある数字にはなりません。

数値で測れぬ学びの姿勢

さらに受験科目が主に3科目の私学文系の大学の受験生と、数学などを含む多数科目の大学入学共通テストを受けた上で2次試験を突破してきた国立大学の学生の成績を同じ偏差値で比較することには何の意味もありません。

彼らは福島大学の学長の反論を受けて、自らのネット番組で謝罪しましたが、これを大勢の人が見ることで、彼らはさらに収益を稼ぐことができています。これがいわゆる「炎上商法」というものなのではないでしょうか。

今回、私は福島大学で授業を持ったことで、学生のうち福島県出身者は全体の4割に過ぎないことを知りました。

残り6割は、全国各地から来ているのです。もちろん家庭の都合で福島県から出ることができなくて進学して来た学生もいるでしょうが、中には「東日本大震災で被害を受けた福島大学だから来た」という学生もいました。

まさに多様な学生諸君が学ぶ大学。統計学的に意味のない偏差値で測ることのできない若者たちなのです。

授業では真摯で鋭い質問が相次ぎました。私にとっても学びがいのある大学でした。

さらに統計学的に意味のない数字を振り回す企画を考える人もいるのだと知ったことは、これも別の意味で収穫の多い夏になりました。

大岡山は池上教授の活動拠点である東京科学大学のキャンパス名に由来します。日経電子版に「大岡山通信」ほかコラムを掲載しています。

▼ビジネス↓コラム↓就活↓「池上彰の大岡山通信」「チーム池上が行く!」「池上彰のSTEAM教育改革」